

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年10月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇普通期水稻◇ (夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)

「元気つくし」は収穫終了しました。「ヒノヒカリ」は、収穫中で、10月18日頃終了の見込みです。10月下旬には「実りつくし」、「ヒヨクモチ」の順で収穫予定です。「ヒノヒカリ」以降の中晩生品種は、穂数が平年より少なく、台風9号、10号に伴う強風で倒伏も見られることから登熟はやや劣り、収量は平年よりやや低い見込みです。トビイロウンカによる坪枯れの発生は、過去10年で最も多いです。

倒伏した水稻は、落水して穂発芽を防止しましょう。「ヒノヒカリ」以降の品種は、出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して収穫を開始しましょう。トビイロウンカによる坪枯れが発生した場合は、可能な限り収穫を早めましょう。縮葉枯病発生地帯では稲株のすき込み、休耕田の耕起や畦畔の雑草管理を行いましょ。

◇大豆 (フクユカ) ◇

現在、子実肥大期です。播種の遅れや8月の乾燥により、主茎長は平年より短いです。播種が遅れたことや開花期以降の多雨・日照不足の影響により、莢数は少ない傾向です。一部、台風9号、10号に伴う強風より倒伏が発生し、粒肥大の抑制が懸念されます。地域により葉焼病の被害が見られますが、その他の病害の発生は少ないです。アサガオ類やヒユ類などの雑草が多発したほ場が散見されます。

大型雑草は、汚損粒発生防止や効率的に収穫作業ができるように、早めに除去しましょう。落葉期を迎えたら暗きよの栓を開け、排水を促しましょう。収穫ロス、汚損粒の発生軽減のため、コンバインにリフターキットを装着する準備を行いましょ。

◇イチゴ◇

9月下旬以降の少雨による乾燥の影響や夜間の気温低下により、生育は、早期作型、普通期作型とも平年より数日程度遅い傾向です。早期作型(9月10~15日頃定植)の出蕾は、定植日の早いものから始まっており、出荷は11月中下旬から始まる見込みです。

株の生育に応じて、遮光処理等の2番花対策を徹底しましょう。マルチ被覆時には硬くなった畝表面を中耕しましょう。摘葉後にハダニ類の対策を徹底しましょう。炭疽病が多発したほ場は、秋ランナーなどを活用し親株を更新しましょ。

◇ナシ◇

現在晩生種の出荷中です。出荷量が減少した要因は、「幸水」では肥大不足による小玉化です。「豊水」や晩生種では発芽や開花の遅延・異常による結実不良や台風での落果、病害虫では黒星病の発生等の影響が考えられます。

次年度の生産に向けて、秋季せん定や黒星病の秋期対策の徹底を図りましょ。

◇イチジク◇

収穫は無加温ハウスではほぼ終了、露地では7~8割終了です。

出荷量が減少した要因は、夏季の長雨日照不足による疫病の発生、高温乾燥による小玉傾向、9月上旬の台風による風傷果の発生等です。現在の出荷は、天候の安定により比較的順調に推移しています。

腐敗、カビ、裂果対策、として、適期収穫、適正な選果、予冷等の鮮度保持対策を図りましょ。収穫が終了した施設栽培では、過乾燥による根傷みを防止するため灌水を徹底しましょ。

◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型（6～9月出荷）は終了しました。出荷量は、作付け面積の減少により大きく減少しました。販売単価は、他の草花の入荷も少なく、平年並みとなりました。秋出荷作型（10～12月出荷）の生育は、順調。チップバーン等の生育障害も少ないです。出荷ピークは、10月下旬から11月上旬となる見込みです。

日中は換気に努め茎葉の締まった株づくりを行いましょう。11月出荷分は10月下旬から15℃加温を行い、出荷時の品質向上を図りましょう。斑点病、灰色かび病、夜蛾類の対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

9月の豚枝肉価格は、家庭消費が堅調のため、前年及び過去5年平均ともほぼ1割増です。鶏卵価格は、大幅に低下しています。供給増の傾向は解消できていません。

家畜伝染病発生予防のため、農場の衛生管理を徹底しましょう。稲 WCS や稲わら収穫、牧草の播種作業等農作業事故に注意しましょう。